



No.212

ティークレイク

Tea Break

血液型によるレジスタンス

会員 正林 真之

血液型に基づく性格診断や占いの類が実は当てにならないものであるというのは、学術的にも指摘されるところがある。けれどもその一方で、血液型によって病気になる可能性が異なるのは、学術的にもよく知られていることである。最もよく知られているのは、「O型は、梅毒に対して強い」というものである。梅毒というのは、今更ここであえて説明するまでもなく、既に周知のように、カリブ海に浮かぶ西インド諸島の風土病であったものを、そこに立ち寄ったコロンブスの一行がヨーロッパに持ち帰り、世界中に大流行するに至ったものである。

むろん、これは教科書にも載って居るような有名な話であるが、それを最初に読んだときに、私もその仲間も、「では、そもそも、どうしてアメリカ大陸中の人々が梅毒に罹りまくっていなかったのだろうか?!」と不思議に思ったものである。けれども、それはそのはずで、我々が元々インディアンと呼んでいた「ネイティブアメリカン」の方々というのは、圧倒的にO型が多く（というか、その殆どがO型である）、そもそも梅毒に対して耐性があったわけである。

ここで、血液型というのは、赤血球についている糖鎖の末端の糖によって決まる。赤血球の表面には、糖鎖なるものがびっしりと毛のように生えている。この糖鎖の種類が血液型となる。まずA型は、糖鎖の最末端（つまり、一番外側）に、N-アセチルガラクトサミンという糖が付いており、B型では最末端の糖がガラクトースとなっている。そして、A型の最末端のN-アセチルガラクトサミンが外れたらO型になり、B型の最末端のガラクトースが外れたらO型になるというわけである。ちなみにO型というのは、A型やB型の進化形であるということである。しかるに、血液型の本質というのは、「免疫の型」なのである。なので、当然に、血液

型によって免疫のタイプが異なる。つまり、耐性のある疾病が変わる、ということである。

1953年に、イギリスのI.Airdにより、約3000人どうしの実験群と対照群によって行われた結果によれば、A型というのは、最も胃癌にかかりやすい血液型だということである。つまり、A型は胃癌に弱いのである。これに対して、B型というのは、肺炎や感染症に最も弱い血液型であるという。とすれば、昨今の新型コロナウイルスとて、B型の割合の多い欧米にて猛威を振るい、B型の割合の少ない日本をはじめとするアジア諸国では、欧米ほどには深刻な事態にならないことの説明もつくというものである。今更ここであえて言うまでもなく、日本人にはA型の割合が多く、死因のトップは癌である。

では、それにもかかわらず、なぜ日本人の平均寿命は長いのか。それは、「かかりやすいから」ということで、自ら用心するからだと言う専門家もいる。A型というのは胃癌をはじめとする数種の癌に弱いので、行動が慎重になる。なので長生きするというわけである。これに対して、O型というのは豪胆な人が多いという印象を持っている方もおられると思われるが、それは、そもそも感染症に罹り難いのであるから、振る舞いが大胆になるとも考えられる。

血液型によって免疫力が変わり、端的に行ってしまうと、A型は免疫力が弱いから行動が慎重になり、O型というのは免疫力が強いから何かと豪胆になる。では、特許事務所経営や、顧客獲得のための営業活動に向いているのは、どちらなのであろうか。これには色々な考え方ができるであろう。そもそも豪胆（O型）なほうが経営にも営業にも向いているのは確かだが、自分の欠点を知っているA型のほうが向いているし、そもそも経営にも慎重さが必要だと考えることもできるだろう。

ちなみに私は A 型である。今さら血液型を変えることはできないので、自らの特性を自覚した状態で対策を練るしかないので、一般的な世間評価からすれば異なるものになるのかもしれないが、実際には、経営者としてはかなりの慎重派である。そしてまた、経営パートナーに聞いてみたら、やはり A 型が多い。なのでこの事務所は、慎重派の中で、それらがうまくバランスを取りながら経営をしているということになる。それがある意味、今の経営の強みとなっているのかもしれない。そんなふうにも思える。

ところが、ふと我々の秘書たちに血液型を尋ねてみたところ、所長秘書と副所長秘書の全てについて、一人残らず O 型であった。むろん、今更ここであえて言うまでもなく、病原菌に強い耐性を持っているということは、ストレスに対しても強い耐性を持っているということである。だとすれば、経営パートナーの殆どが慎重派というのは強みの源泉でも何でもない。経営者からの理不尽な要求にも耐えられるサポート部隊。これが真の強みであると、そう考えるより他にないのである。